

五峡の子

学校だより 12月号
荒川区立第五峡田小学校
校長 出井 玲子
令和4年12月1日(木)
TEL 3892-9515
五峡小ホームページ

<http://www.aen.arakawa.tokyo.jp/DAI5HAKETA-E/>

【学校教育目標】 「かしこい子」 「やさしい子」 「たくましい子」



拍手の力 讃え合う力

校長 出井 玲子



山茶花は12月の花。花々の少なくなつた冬に元気をくれるように明るく咲いています。この時期になるといつも思うことがあります。それは、年の初めに立てた目標や計画がなかなか予定通りにで

きなかつたという後悔です。しかし、今年はコロナ禍でも何とか学校行事なども実施でき、その気持ちが少しだけ減りました。先日の学芸会の保護者アンケートには、「コロナ禍の心配を乗り越えて成長している子供たちの姿を目の当たりにできてよかった」というお声をたくさんいただきました。また、学校評議員の皆様からも子供たちの伸び伸びとした演技や歌声にお褒めのことばをいただきました。これも保護者の皆様のご協力のお陰様です。ありがとうございました。

さて、東京都ではコロナ禍に子供たちに様々な体験学習を提供する「子供を笑顔にするプロジェクト」という事業があります。スポーツ選手や各種文化人にお越しいただき子供たちに元気と文化と技術を伝えてくださる活動です。本校では先日11月29日(火)に、日本を代表する元サッカー選手 北澤 豪 氏が来てくださいました。現在は日本サッカー協会参与、日本障がい者サッカー連盟会長としてご活躍です。実技指導は5、6年生にのみにいただきましたが、1～4年生には、全教室を回って励ましのメッセージをいただきました。プロの直接の技術指導に子供たちも大喜びでした。ちょうどサッカーワールドカップ開催中ということも重なって学校全体が大変盛り上がりました。

北澤氏からは、「自分の意志をもって、周りのことをよく見て考えて行動すること。それがチームワークにつながる。」というお話をいただきました。そして、ご自身の選手時代に挫折しかけたとき、仲間に使われたことへの感謝とその存在の大きさについて話してくださいました。「だから、成功しても失敗しても互いに拍手を送り合い、讃え合うことが大切なんだ。」と。心に響くことばでした。子供だけでなく大人も笑顔になるプロジェクトになりました。ご来校ありがとうございました。

今、ウェルビーイングということばを耳にすることが増えてきました。文部科学省の次期教育基本方針(案)の「目標16 豊かな心の育成」にも謳われています。幸福感と訳されるウェルビーイングは「一人一人の多様な幸せとともに社会の幸せを目指す。」とあります。

山茶花の花言葉は「困難に打ち勝つ」です。困難を笑顔と協力で乗り越えウェルビーイングを達成できる五峡小学校でありたいと思います。